

高学年 第5学年の授業づくり

研究授業前の 児童の姿

○場面ごとの内容や物語の展開を理解しながら読むことができる。

●友達とすすんで伝え合おうとする習慣や意欲はあるが、読み深めるために自分たちで考えを比べながら焦点化して伝え合う力を付けていく必要がある。



研究授業 9月17日(水)

単元名 登場人物の心情の変化をとらえよう

教材名 「大造じいさんとガン」(光村図書 5年)

授業の工夫

- 1 自分の考えをトリオ学習で比べながら伝え合った後に全体交流を取り入れ、全体で読み深めさせる。
- 2 物語全体を通して登場人物の心情の変化を捉えられるよう、構造的に読み取る学習過程を作る。



1 トリオ学習を取り入れた読み取りを深める工夫

学習課題に対して自分の考えをもった後に、トリオで伝え合いを行った。なぜそう考えたか叙述から根拠を明らかにして意見を出し合い、自分の考えとの違いや共通点について友達と意見を交流したり、新たに一緒に考えを出し合ったりした。トリオ学習の段階を踏むことにより、自分の考えがより確かなものになったり、友達の助言を得て再検討したりできた。それにより、全体交流の場で自信をもって自分の意見を発表し合うことができ、全体で読み深めることができた。

2 物語全体を構造的に読むための工夫

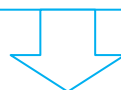
場面ごとに読むことだけでなく、物語のはじめと終わりでは、どのように変化したのか、いつ、どのようなきっかけで変化したのか、ということをつまえる力を付けることにより、語句や描写に着目しながら読み深めようとする姿勢がもてると考えた。読み取りの過程も、場面ごとに縦に区切らず、「情景」「大造じいさんの心情」など、物語全体を横の軸で見て比べながら読んでいくことにより、大造じいさんがなぜ残雪にそのような思いをもち続けたのか、何によってそれが変わったのか、という逆思考をしながら読み深めようとする姿勢が見られた。学習したことを生かして、読書紹介の際などでも、中心人物の心情の変化など、物語を全体的に捉えて紹介することができた。



研究授業 成果と課題

☆トリオ学習によって多様な気づきがあり、読み取りを深めることができた。

★トリオ学習の際に、友達と自分の考えを十分に比べたり焦点化したりできていないグループには、教師が適切な声かけを工夫していく必要がある。



研究成果報告会 授業のポイント

単元名 物語を読んで、自分の考えをまとめよう

教材名 「わらぐつの中の神様」(光村図書 5年)

トリオ学習や全体交流において、叙述を手掛かりに根拠をもって自分の考えを伝え合うことを通して、一人一人が自分の考えを広げたり、深めたりする授業